

令和元年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す
- ②基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

60数年にわたって築かれた伝統を継承するとともに、未来に向けて更なる学校の活性化を図る。そのために「生徒一人一人に寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、「人との絆」を大切に社会で活躍する人材を育成するために、次の4点を重点目標に掲げ、「人づくり」のために邁進する。
更に、今年度の合言葉として「弾む心、つながり、明日を夢見る佐賀学園」を掲げ、澁刺と勉強や部活動に向かい、人との絆を大切にすることを、日々成長する生徒が育つ学校づくりに取り組む。

①授業の充実
教職員が日々自己研鑽に努め、分ける授業を実践するとともに宿題・課題の提出を日常的に行い家庭学習の習慣化を図ること、さらに、資格取得の推進を図ることで、生徒を意欲的な学習に向かわせる。

②マナーアップ(正しい制服の着こなし・立ち振る舞い)
挨拶・服装・礼儀について年度当初にしっかり教育を徹底して行う。また、内面の充実(規範意識の醸成)を目指して、生徒の心に響く話をホームルームや個人面談で行い、自立心をもった落ち着いた生活態度、さわやかな言動を身に付けさせることで地域社会の信頼を得ることを目指す。

③教育環境の整備
清掃活動を重視し、生徒の机のまわりの整理や教室の整理整頓、校舎全体の環境整備をすることで、授業への雰囲気づくりや学校生活へ意欲向上を図る。また、同様に職員室の整理整頓、職員の机の整理を義務付ける。

④部活動の強化
部活動加入率を向上させ、部活動生徒を普段の学校生活の核になる人物に育てる。また、県高校総合体育大会等で優勝旗を4本以上とすることを旨とする。

4 前年度の成果と課題

年度の重点目標の周知は職員・保護者ともまだ不十分である。生徒の基礎学力向上は授業への意欲、マナトレの取組とともに改革が必要である。進路については成類高等部の進路について大きく課題が残る。地域から信頼される学校を目指して、生徒の学習意欲と学力向上、本校生徒として自覚ある立ち振る舞いの醸成を全職員一丸となってさらに進めなければならない。また、多少改善がみられるものの制服の着こなし、マナーアップ、環境美化を推進する必要がある。部活動加入率の増加、部活動の実績については向上がみられた。生徒募集は対策室をはじめ教職員の努力があったが、目標値を大きく下回ることとなった。佐賀市内中学校からの生徒の確保については厳しい状況が続いている。初任者研修については、成果がみられなかった。
本年度は、昨年度に続き、地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が最重点課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために、必要な新たな方策を早急に立て実行に移したい。マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動のさらなる実績向上を目指したい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知し、重点目標に積極的に取り組むことができたか。 ・重点目標に従い、各分掌等で具体的な行動目標が実践できているか定期的に進捗状況を把握できたか。 ・職員の資質向上を図ることができたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を昨年度以上にする。(昨年度生徒31.2%、保護者24.8%) ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を昨年度以上にする。(昨年度生徒43.0%、保護者57.3%) ・分掌・学年が決めた目標達成に向けて部長・主任へのアドバイスを頻繁に行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との面談の機会を多くもつ。	・全校集会、振興会総会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して月毎に面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・初任者研修で若手職員の育成、授業見学によりベテラン教員の更なる充実を図る。 ・学校の教育活動をワンペーパーで表せるような資料を考える。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生及びその保護者、中学校に正しく伝えられたか。 ・本校の取り組み姿勢に共感していただけたか。 ・受験者増加につながる募集活動が、背水の陣を敷いて全職員、学校をあげて行えたか。	・受験者数の前年度比110%、推薦・専願入学者数170名(推薦120名、専願50名)を目標とする。 ・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで本校の良さを認知させ、親近感を持たせる。	・募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に「選んでもらえる」新たな戦略を練る。 ・基礎・基本を重視した教育プログラム、充実した施設・設備を活用した情報処理教育の力、活発な部活動の実績をアピールする。 ・優遇制度のPR強化と有効な活用を図る。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・事務職員の接客能力の向上を図ることで、来客者や架電者に学校に対する良い第一印象を持っていただく。 ・コンプライアンスを遵守する。	・挨拶は来訪者に気付き易い後方から元気に笑顔で実践する。 ・正しい敬語を意識した会話、またスピーディーな対応を心掛ける。 ・決められたルールを守る。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加することにより指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センターの研修講座に3年間で1回以上年間15名以上参加する。 ・各教科で所定数の研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立と「生徒の興味関心につながるわかる授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・各教科会を機能させ「分かる授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・平時より課題を課し、評価する。
	進路指導	・各学年における進路意識が具体的な行動に反映されたか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・進路を実現するために基礎学力がついたか。 ・希望進路が具体的な進路保障に繋がったか。 ・生徒の覚悟のある進路実現に繋がったか。	・年内の就職内定100%を達成する。 ・受験に対応した学力と校内学力判定テストや基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・進路指導講話や外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・成類高等部を主とした国公立大学、有名私立大学合格者数増加を目指す。	・国数英3教科の担当者と連携したマナトレの活用や長期休業中のセミナーの実施による基礎学力の向上を目指す。 ・担任によるFINE SYSTEMの利活用により具体的指導を活性化させる。 ・進路調査、適性検査などで個々の客観的データを分析・検討し、担任指導で活用する。 ・就職希望者へのガイダンスでの企業説明会の充実、校内学力判定テスト前のセミナー及び面接指導を実施する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施し、卒業生の現状を把握する。
	生徒指導	・制服は正しく着用できているか。 ・交通ルール・マナーは守られているか。 ・挨拶返事は元気よくできているか。 ・他人に対する思いやりの心を持っているか。	・制服を正しく着用する。 ・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間とでもコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。 ・SNSによるトラブルがないように注意する。	・型にこだわる指導と並行して内面的な指導を加えていく。 ・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を控えさせる。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化の意識を向上させる。	・美化コンクールなどを実施する。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。 ・全員清掃の時間を設ける。 ・職員の清掃意識の向上を図る。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活の部員数を増加させる。	・部活紹介を工夫し、生徒に興味を持たせる。 ・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・所属学級担任・学年主任・授業担当者・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校または所属学級への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、所属学級へ戻れるようサポートする。 ・学校行事や集会等にも積極的に参加できるように指導する。 ・教育相談室での学習に積極的に取り組める環境づくりを行い、生徒に達成感や満足感を味わわせるよう指導する。	・職員の連携を密にするとともに保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようサポートする。 ・所属学級の教科担当者や連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力を向上を図る。 ・Q-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学級づくりを行うためのサポートをする。
	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分できるか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になってもすぐに活かせることを目指す。	・机上学習で礼儀等を学び、礼法室での実技を通し体得させる。
	生徒会活動	・校内外の問題を自分たちで考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・地域行事への参加を通し社会貢献を果たす。	・生徒会での議論の場を増やし、関連分掌・学年・学級との連携を図る。
	キャリア教育・マナトレ	・毎日のマナトレの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナトレ及び基礎力診断テストを活用することでGTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。	・マナトレのより良い活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。 ・認定テストや基礎力診断テストを分析して学力向上につなげる。 ・キャリアノートやインターンシップを活用することで進路保障に結びつけることができるよう指導の充実を図る。